

2019年11月3日(日)朝10:10～ 主の降誕前第8、コイノアセル等  
11月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：弟子は師のように生きる(25節)

聖書:マタイ 10章21～25節

＜口語訳＞

新約聖書15～ 頁

マタイ 10章21～25節

＜新共同訳＞

新約聖書18～ 頁

マタイ 10章21～25節

＜新改訳第3版＞

新約聖書18～ 頁

マタイ 10章21～25節

＜塚本訳＞

新約聖書94～95頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
- ◇本日の**マタイ10:21～25**は、「**迫害**」された時、主の弟子たちは、どうすればよいのかが、示されています。
- ⇒「**12使徒の派遣**」は、「**迫害**」の危険の中に派遣されることではなく、「**イスラエルの失われた羊・全世界の失われた羊**」をいのちの危険から救い、「**真の救い主・神の御子イエス・キリスト様**」の「**羊の囲い・憩いの園**」に、羊を導くことで、主は、収穫の刈り入れだと、**マタイ9:38**で仰せになりました。
- ⇒良い羊飼いは、羊のためにいのちを捨てるので、弱い羊は、狼の中でも、戦ってくれる羊飼いのそばにおるのです。
- ⇒「**12使徒の派遣**」は、「**御子イエス・キリスト様**」が、同行してのものでしたし、今は、主の遣わされた「**神の霊・聖霊**」が、一緒です。

本論；

◇本日、**マタイ書10章21～25節**から主の**使信**に**思い・心**vousをとめます。

◆**マタイ10章21～25節**；使徒**マタイ**は、**天の国・神との和解**を宣べ伝える使命には、「**迫害**」が伴いますから、12使徒たちには、**蛇の賢さと鳩の素直さ**が必要で(16)、「**弟子は師のように生きる**(25節)」ことが、求められると主は語っておられます。

◇**16～25節**；塚本訳◆**迫害の予告**

「21 また兄弟は兄弟を、父は子を、殺すために(裁判所に)引き渡し、『子は親にさからい立って』これを殺すであろう。

22 あなた達はわたしの弟子であるために皆から憎まれる。しかし最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

23 この町で迫害された時には、次の町に逃げてゆけ。アーメン、わたしは言う、人の子(わたし)は(すぐに)、あなた達がイスラエル人の町々を回りつくさぬうちに来るのだから。

24 弟子は先生以上でなく、僕は主人以上ではない。(だからあなた達が迫害されるのは当り

前である。)

25 弟子は先生のように、僕は主人のようであれば、それで満足すべきである。家の主人(たるわたし)が(悪鬼の頭)ベルゼブルと(悪口を)言われたのだから、その家族(たるあなた達)はなおさらのことである。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**21～22節** ; 「兄弟は兄弟を、父は子を、殺すために(裁判所に)引き渡し、『子は親にさからい立って』これを殺すであろう(21)。あなた達はわたしの弟子であるために皆から憎まれる(22)」、「しかし最後まで耐え忍ぶ者は救われる」が、「**12使徒の派遣**」が、味わう「**迫害**」でした、「**御子イエス・キリスト様**」とともに、「**神に生きる**」限り、「**避ける**」ことができないものと、主は仰せなのです。

⇒キリシタンを始め、多くの方々が苦難を背負い、その歴史の土台の上に、今日の教会があります。

⇒「しかし最後まで耐え忍ぶ者は救われる」と、主は保証しておられます。「耐え忍ぶ」は、「下にとどまる」の意味で、「**神の恵みの下**」です。

◇**23～25節**；「この町で迫害された時には、次の町に逃げてゆけ。アーメン、わたしは言う、人の子(わたし)は(すぐに)、あなた達がイスラエル人の町々を回りつくさぬうちに来るのだから(23)」、「弟子は先生以上でなく、僕は主人以上ではない。(だからあなた達が迫害されるのは当たり前である。)(24)、弟子は先生のように、僕は主人のようであれば、それで満足すべきである(25)」、「家の主人(たるわたし)が(悪鬼の頭)ベルゼブルと(悪口を)言われたのだから、その家族(たるあなた達)はなおさらのことである」と、「主の弟子たち」に、「**神の御子イエス・キリスト様**」は、「**神の知恵**」を与えて下さいました。

⇒①「弟子は先生のように、僕は主人のようであれば、それで満足すべきである」で、②「家の主人(たるわたし)が(悪鬼の頭)ベルゼブルと(悪口を)言われたのだから、その家族(たるあなた達)はなおさらのことである」です。

⇒「弟子は先生のように」とは、上から目線の教師になることではなく、「**神の御子イエス・キリスト様**」と、同じ目線です。

⇒「(悪鬼の頭)ベルゼブル」と「その家族」は、かけことばになっています。

⇒「ベルゼブル」は、「住居の主」の意味で、「その家族」、「主の家族」と、対比されています。主は、「(悪鬼の頭)ベルゼブル」だと、ののしられたのです。

⇒「**弟子は師のように生きる(25節)**」ことは、悪霊のかしらのように評価されることで、それに耐え忍ぶ(**神の恵みの下にとどまりつづける**)ことが求められています。

⇒私たちは、何もしなくても、肉体のいのちは尽きてしまいます。

⇒「**迫害**」は、「避けて逃げる」(23)と、主は勧められていますし、「あなた達がイスラエル人の町々を回りつくさぬうちに来る」と、苦難には、終わりがあることをも示しておられます。

⇒その上に、蛇のように賢く、鳩のように素直に、「**神の恵みの囲い**」にすることが、大事です。

⇒「**御子イエス・キリスト様の恵みの囲い**」は、固定した場所ではなく、移動する囲い、どこにでも、「**備えられている神の隠れ場**」です。

⇒「**神の恵みの逃げ場**」を日々見出しましょう。

## 結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓(説教)**の箇所です。
- ◇本日の**マタイ10:21～25**は、「**迫害**」された時、主の弟子たちは、どうすればを示されます。  
⇒「**12使徒の派遣**」は、「**迫害**」の危険の中に派遣されることなく、「**イスラエルの失われた羊・全世界の失われた羊**」をいのちの危険から救い、「**真の救い主・神の御子イエス・キリスト様**」の「**羊の囲い・憩いの園**」に、羊を導くことで、主は、収穫の刈り入れだと、**マタイ9:38**で仰せになりました。
- ⇒良い羊飼いは、羊のためにいのちを捨てるので、弱い羊は、狼の中でも、戦ってくれる羊飼いのそばにおるのです。
- ⇒「**12使徒の派遣**」は、「**御子イエス・キリスト様**」が、同行してのものでしたし、今は、主の遣わされた「**神の霊・聖霊**」が、一緒です。

⇒ヨハネ黙示録22:20;塚本訳

20 これらのことを証明する者が言い給う、「然り、私は直に来る。」アーメン、主イエスよ、来たり給え(マラナ・タ)！

⇒Iコリント16:22;塚本訳

22 主を愛しない者があるなら、呪われよ！、マラナ、サ(主よ、来てください)！